

2024年3月期 決算説明資料



2024年5月30日
ニチレキ株式会社
(東証プライム 証券コード5011)

「道」創りを通して社会に貢献する
「道」創りのリーディングカンパニー

「種を播け」



「種を播け」

よい種を播いて歩こう
これが我が社のモットーです
たとえ、どんな旱魃がきても
枯れないような強い種をまき
汗を流して肥料をやろう
必ず立派な実がみのる
たとえ、自分がとらなくても
私はこう思っています
種まきをしないで
肥料をやらなくて
誰も果実ばかりねらっているのは
本当の繁栄はこない
私はそう思います

池田 英一（当社創業者）

ニチレキグループ企業理念

基本理念(種播き精神)

『種を播き、水をやり、花を咲かせて実らせる』

たゆみない努力の積み重ねによって絶えず新しい仕事を創造していきます。

経営理念

ニチレキグループは、「道」創りを通して社会に貢献するため、

- ①優れた機能とコストを満足する道路舗装材料ならびに工法の提供
- ②国民の共有資産である「道」をいつも見守る高度なコンサルティング
- ③顧客から信頼される施工技術

これらを完全に一体化し、株主をはじめ幅広い顧客の皆様から信頼される「道」創りになくてはならない収益性に優れた企業グループであり続けるとともに、社員一人ひとりが能力を発揮でき、働きがいのあるグループであることを経営理念とします。

目次

- I . 2024年3月期 決算概要
 - II . 2025年3月期 業績予想
 - III . 資本政策について
 - IV . 今後の展望
- (参考資料)会社概要

I . 2024年3月期 決算概要

当社グループを取り巻く事業環境

- ◆ 防災・減災、国土強靱化対策などが継続し、公共投資は底堅く推移
- ◆ 人件費、原材料高による工事単価上昇に伴う実質ベースでの伸び悩み
- ◆ 人手不足や建設・物流における2024年問題への先行対応

決算ハイライト II (連結経営成績)

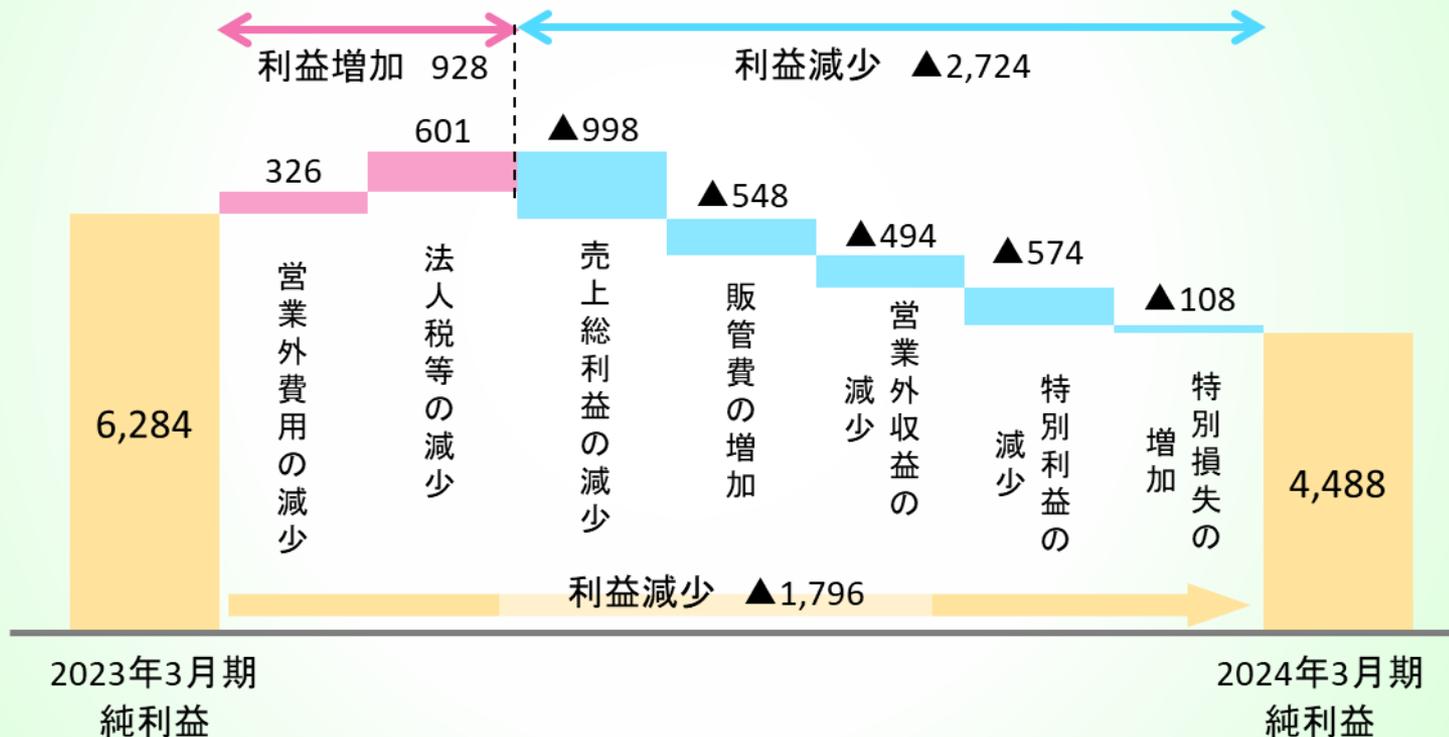


(単位:百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	対前期増減率
売上高	78,397	73,832	▲5.8% ↓
売上総利益	17,462	16,464	▲5.7% ↓
販売費及び一般管理費	9,896	10,444	5.5% ↑
営業利益	7,566	6,019	▲20.4% ↓
経常利益	8,104	6,390	▲21.2% ↓
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,284	4,488	▲28.6% ↓

純利益の増減要因分析

(単位:百万円)



参考:ドバイ原油価格(ドル/バレル)

(ドル/バレル)

120

100

80

60

40

20

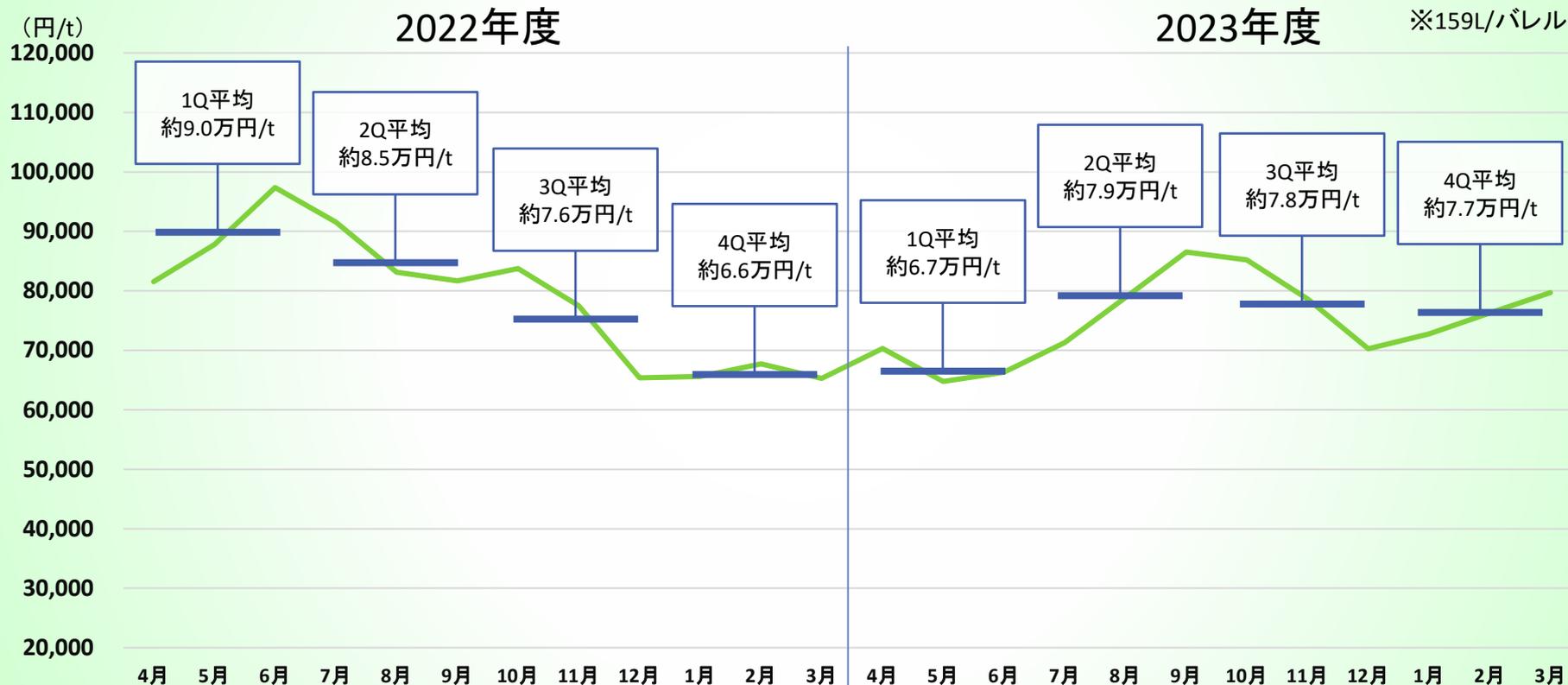


参考:ドバイ原油価格(円/t)

※159L/バレル



参考:ドバイ原油価格(円/t)



決算ハイライト Ⅲ (セグメント別事業活動)



アスファルト応用加工製品事業

- ◆ 高値圏での推移が続く原材料価格への対応
- ◆ 「長寿命化・高性能化」や「環境負荷低減」を図る高付加価値製品の設計・受注活動の更なる強化

道路舗装事業

- ◆ 防災・減災、国土強靱化対策に係る工法提案からの受注活動
- ◆ 工事の着実な執行
- ◆ 資材等の価格高騰への対応および原価管理の強化

決算ハイライト IV (セグメント別業績)



(単位:百万円)

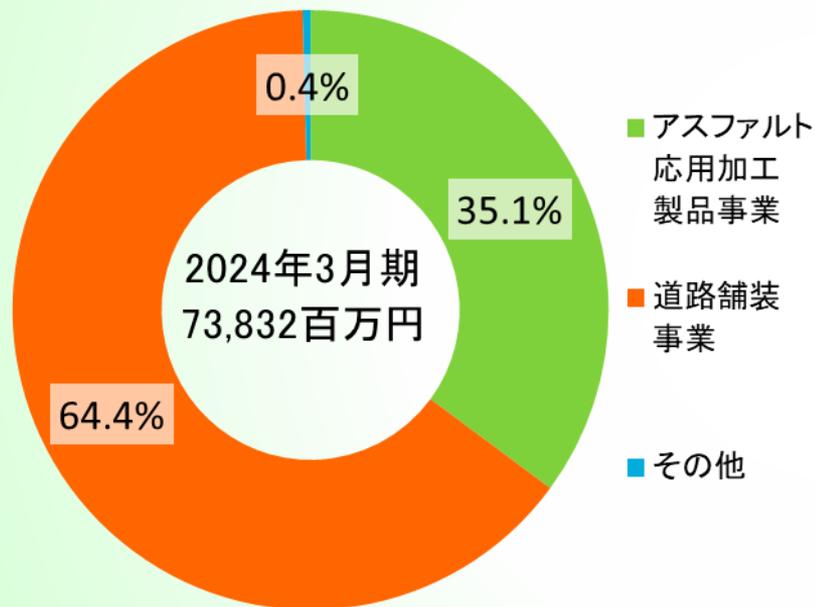
	アスファルト応用加工製品事業			道路舗装事業		
	2023年3月期	2024年3月期	対前期 増減率	2023年3月期	2024年3月期	対前期 増減率
セグメント売上高	27,175	25,937	▲4.6% ↓	50,913	47,580	▲6.5% ↓
セグメント利益	6,014	5,140	▲14.5% ↓	4,630	4,360	▲5.8% ↓
セグメント利益率	22.1%	19.8%	▲2.3pt ↓	9.1%	9.2%	0.1pt ↑
(参考) セグメント売上総利益率	35.1%	34.2%	▲0.9pt ↓	15.7%	16.2%	0.5pt ↑

※アスファルト応用加工製品事業のセグメント売上高は、外部顧客への売上高

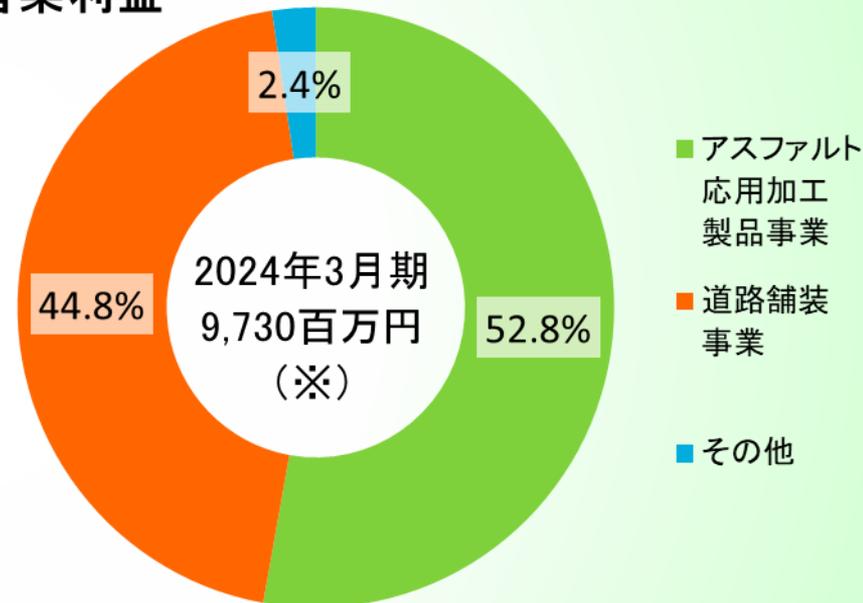
※セグメント利益は、セグメント間取引消去および全社費用の調整額を控除する前の金額

セグメント別業績比率

売上高



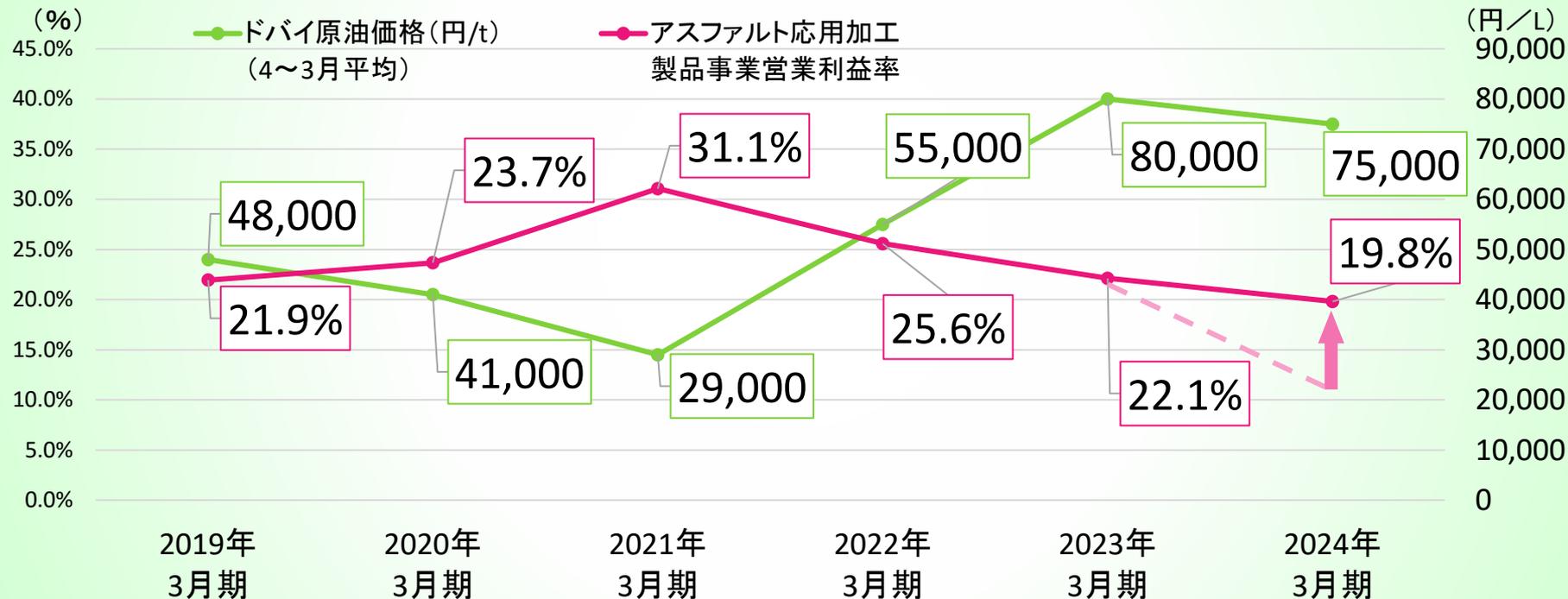
営業利益



※: セグメント間取引消去および全社費用の調整額
3,710百万円を控除する前の金額

営業利益率とドバイ原油価格（平均）の推移

◆ 為替の影響を勘案



貸借対照表 (2024年3月31日)



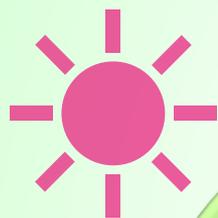
※ () 内は2023年3月期末からの増減

(単位: 百万円)

資産の部 95,094 (+3,620)	流動資産 49,564 (▲5,303)	流動負債 17,865 (+214)	負債の部 20,258 (+1,254)
	固定資産 45,529 (+8,923)	固定負債 2,392 (+1,039)	
			純資産 74,836 (+2,365)

Ⅱ. 2025年3月期 業績予想

当社グループを取り巻く外部環境



政策

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の施行

経済

- ・景気は引き続き改善基調をたどるも依然として不確実性の高い状況
- ・円安・物価高の進行

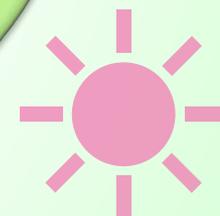


- ・環境・SDGsに対する意識の高まり
- ・建設・物流業界における「2024年問題」

社会

技術

- ・ICT、IoT及びAI技術の発達
- ・自動運転技術の進展



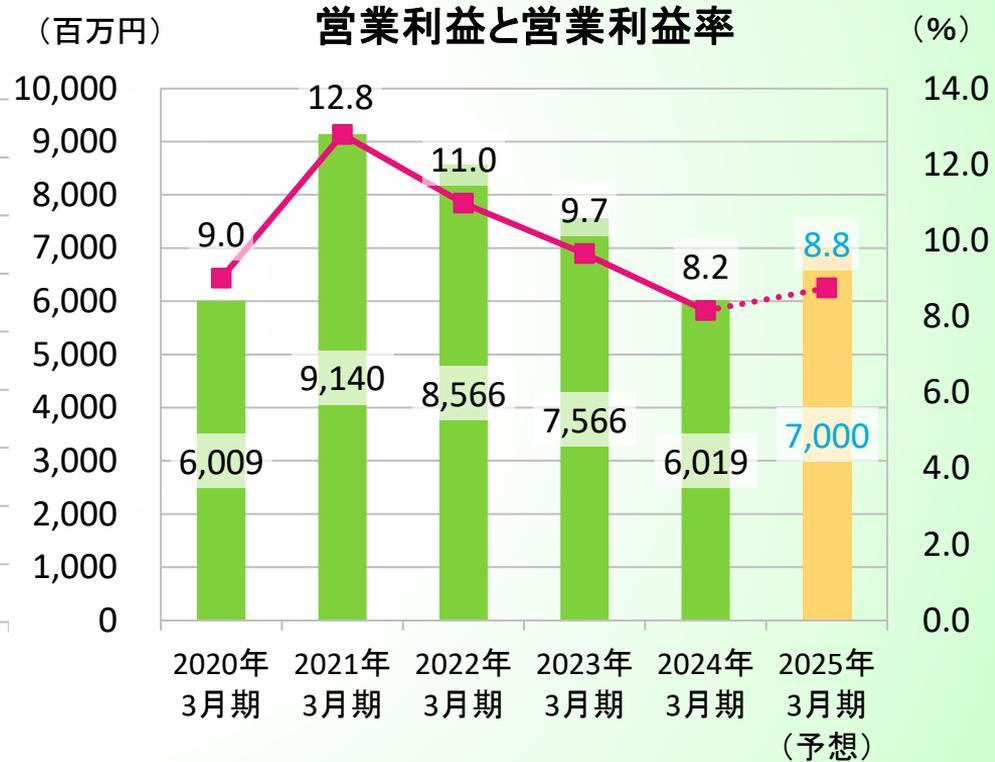
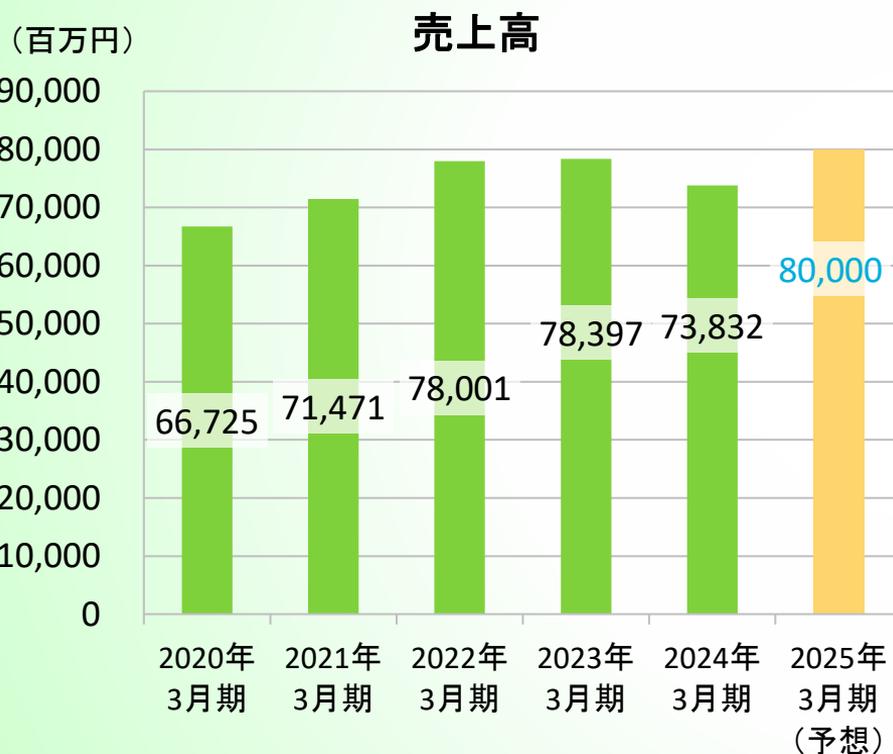
通期業績予想(連結)

(単位:百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想(※)	対前期増減率
売上高	73,832	80,000	8.4%
営業利益	6,019	7,000	16.3%
経常利益	6,390	7,200	12.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,488	4,600	2.5%

※ドバイ原油価格80ドル/バレル、為替150円/ドルで想定

通期業績予想(推移)

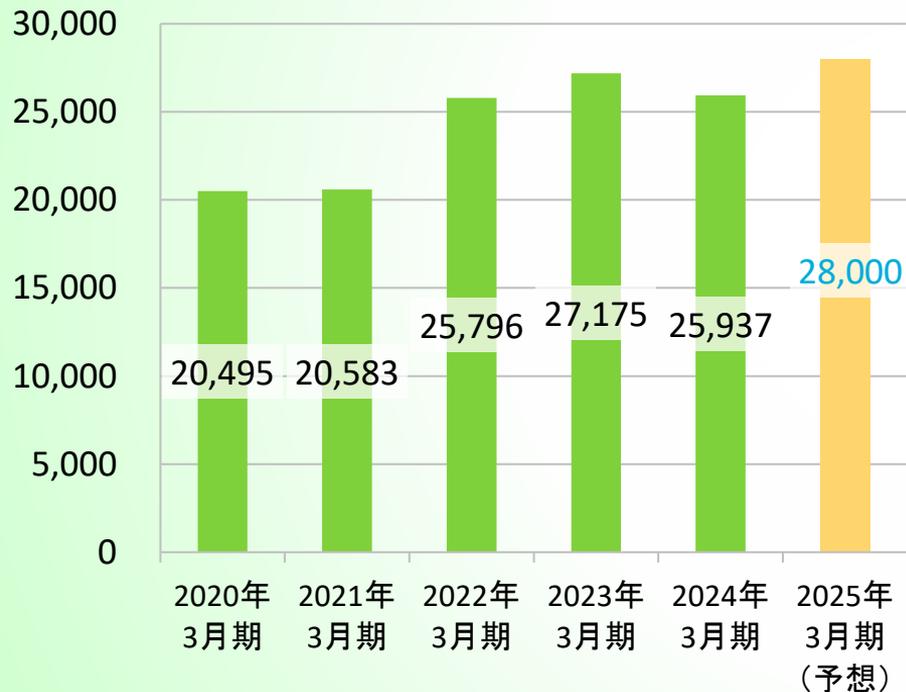


セグメント別業績予想(アスファルト応用加工製品事業)



(百万円)

売上高

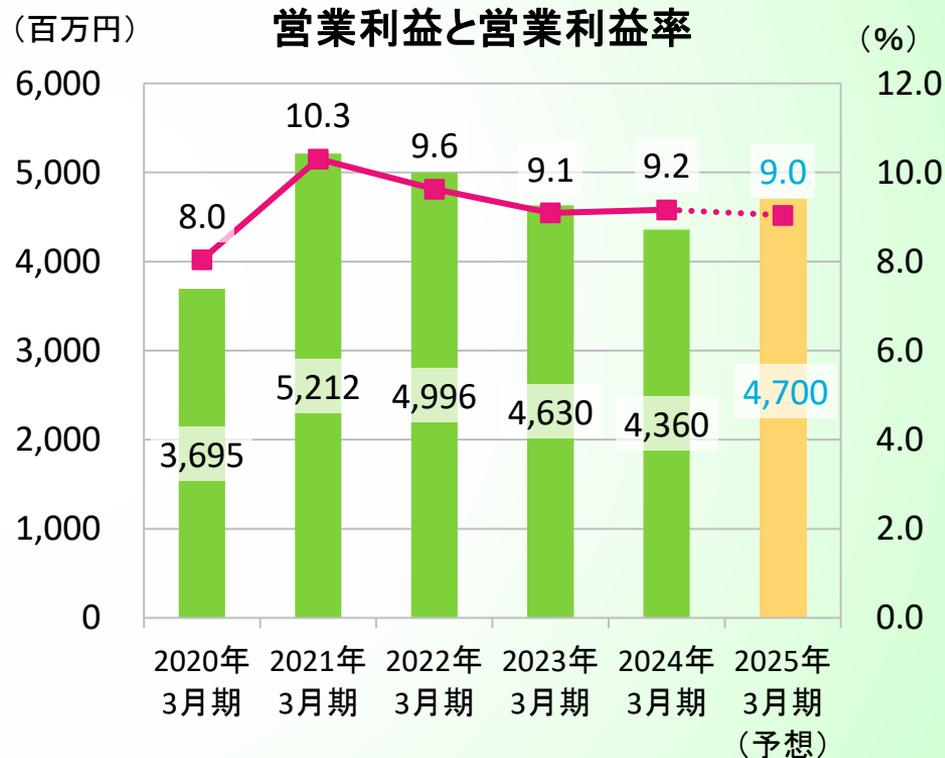
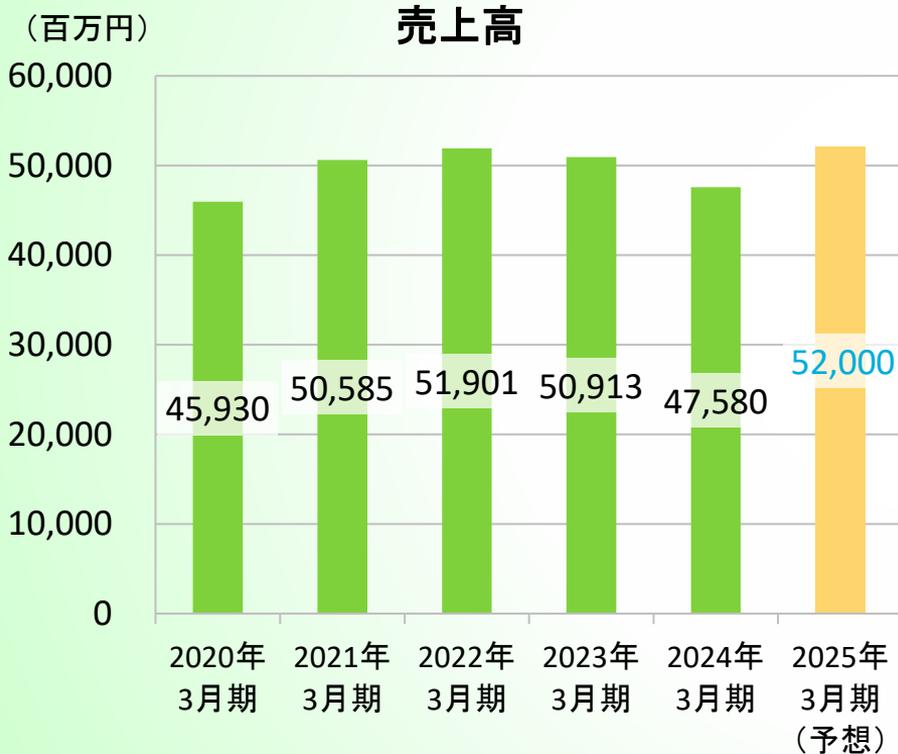


(百万円)

営業利益と営業利益率



セグメント別業績予想（道路舗装事業）

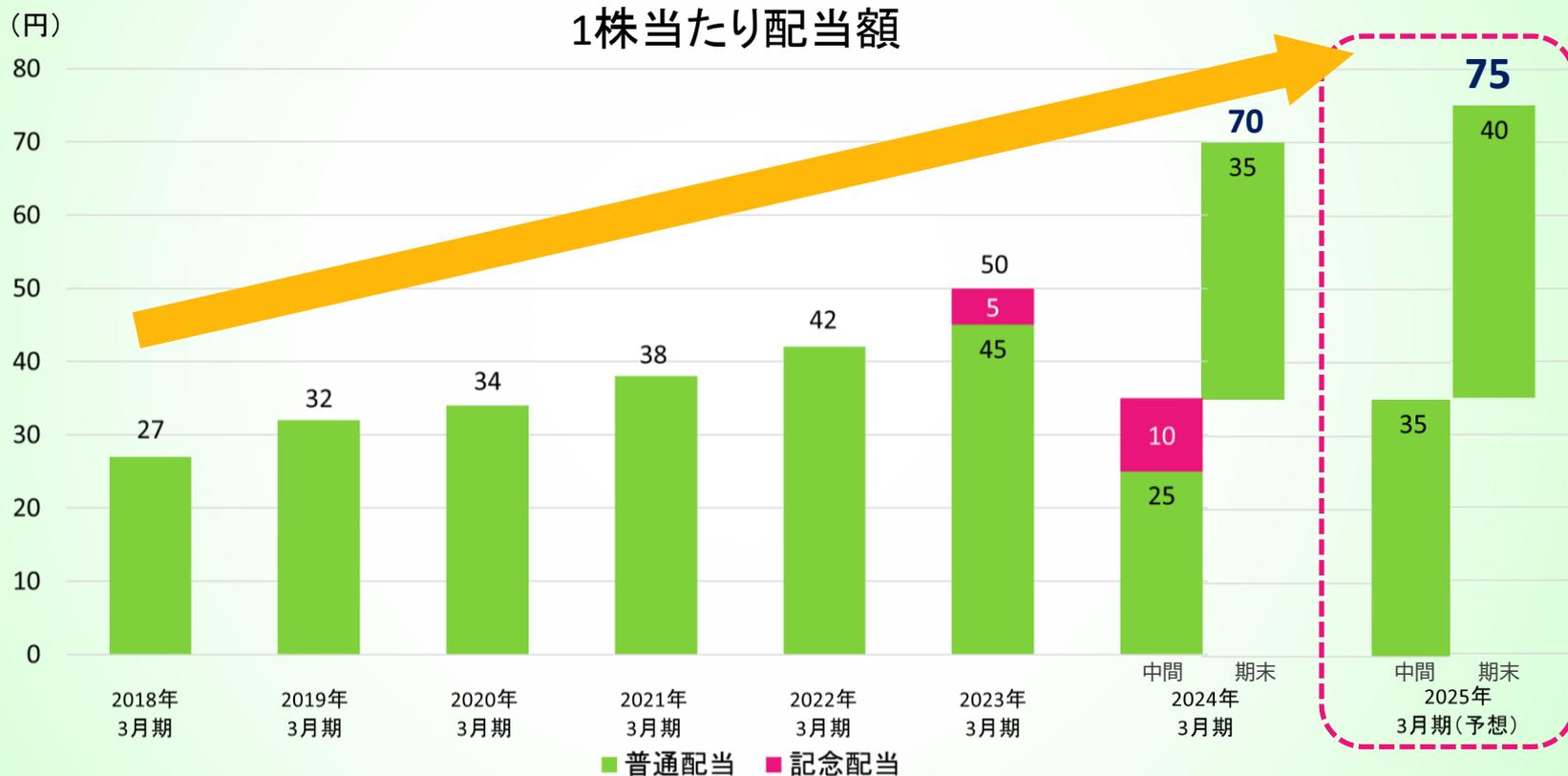


Ⅲ. 資本政策について

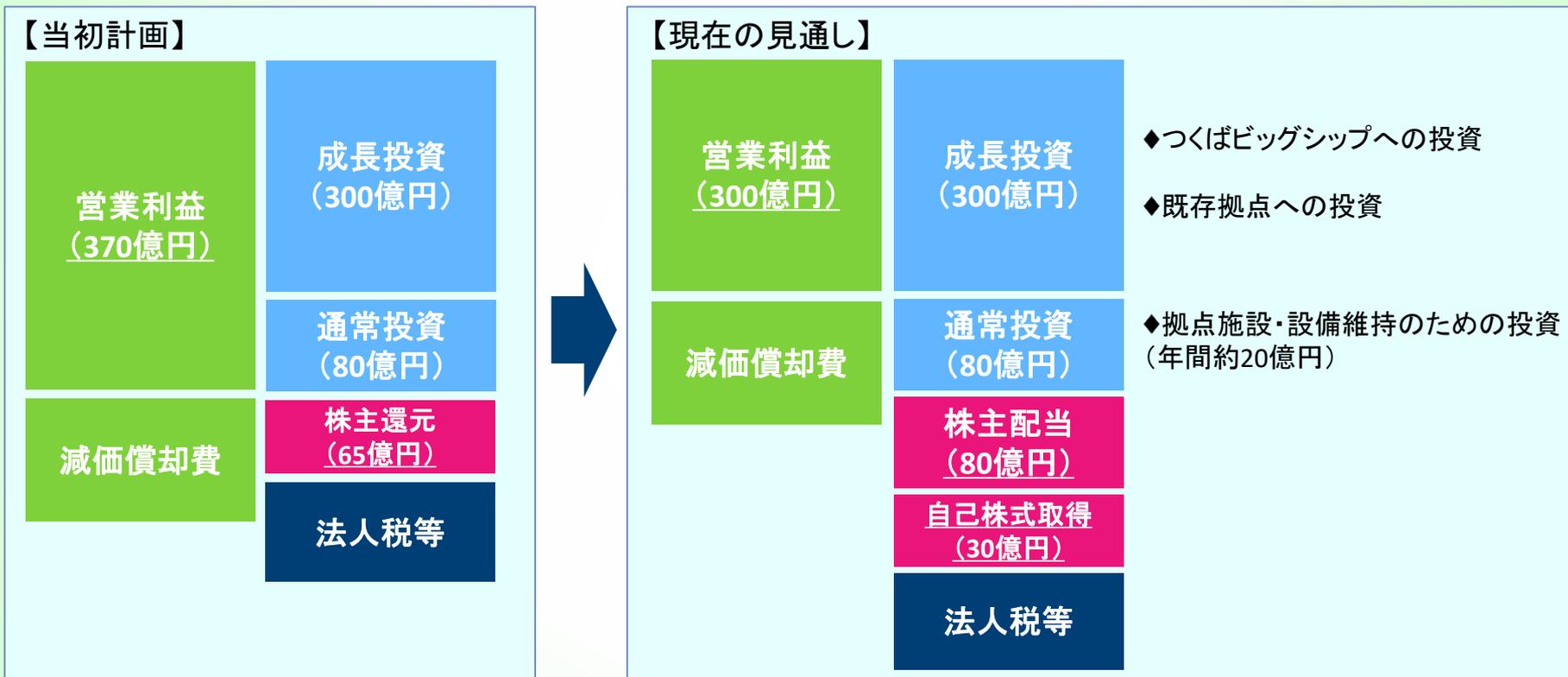
自己株式の取得

項目	取得枠	取得実績
株式総数	1,700,000株(上限)	1,673,100株
株式取得価額総額	3,000,000,000円(上限)	2,999,944,756円
取得期間	2023年3月1日～2024年2月29日	2023年3月1日～2024年2月29日
株式の種類	当社普通株式	
取得方法	東京証券取引所における市場買付	

配当予想及び推移



キャッシュアロケーション(2022～2025年度 4年間)



資本コストを意識した経営の実現に向けた対応(要旨)



現状分析

【資本収益性】

- 2020年度以降、それ以前と比較し、一段階高いレベルのROE及び当期純利益を獲得。

- 近年株主還元を強化しており、1株あたり配当額は、2018年度の32円/株から、2023年度は70円/株と大幅に増額。2022年度～2023年度には自己株式の取得も実施し、総還元性向も大幅に向上。

【市場評価】

- PBRは、主としてPERの低迷により、近年0.55～0.80程度のレンジで推移していたが、2023年度に上昇基調が鮮明となり、2023年度末には1倍近辺まで上昇。

取り組み

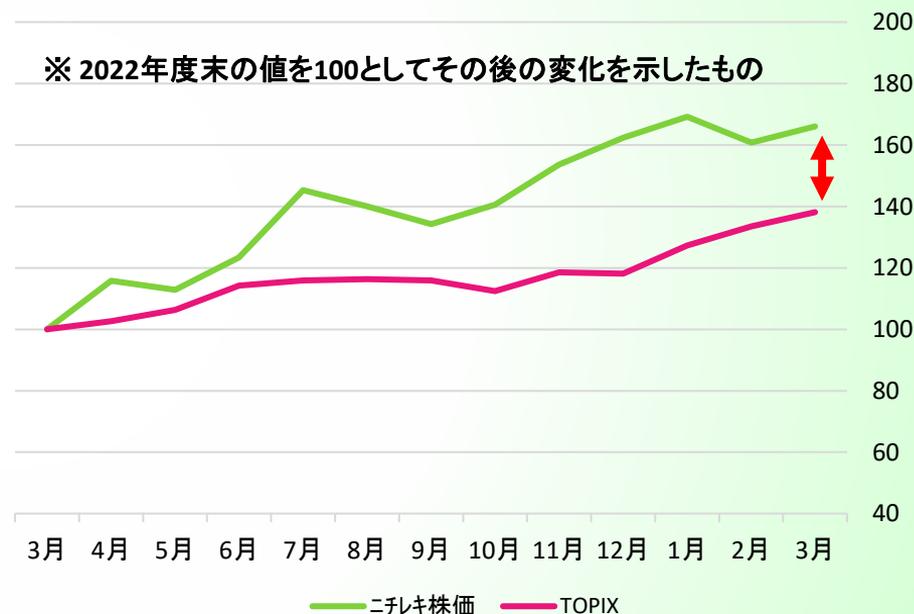
- 当社の企業価値向上のためには、中長期的な収益の安定性や成長性に対して株式市場から十分な評価を得られるよう、現行中期経営計画「しなやか2025」にて策定した各施策を着実に実行するとともに、継続的に収益力の強化、資本効率の改善を図り、資本コストを低減していくことが必要。

現状分析(株価・PBRの推移)

市場評価の推移(株価・PBR)



対TOPIXニチレキ株価推移(2023年度)

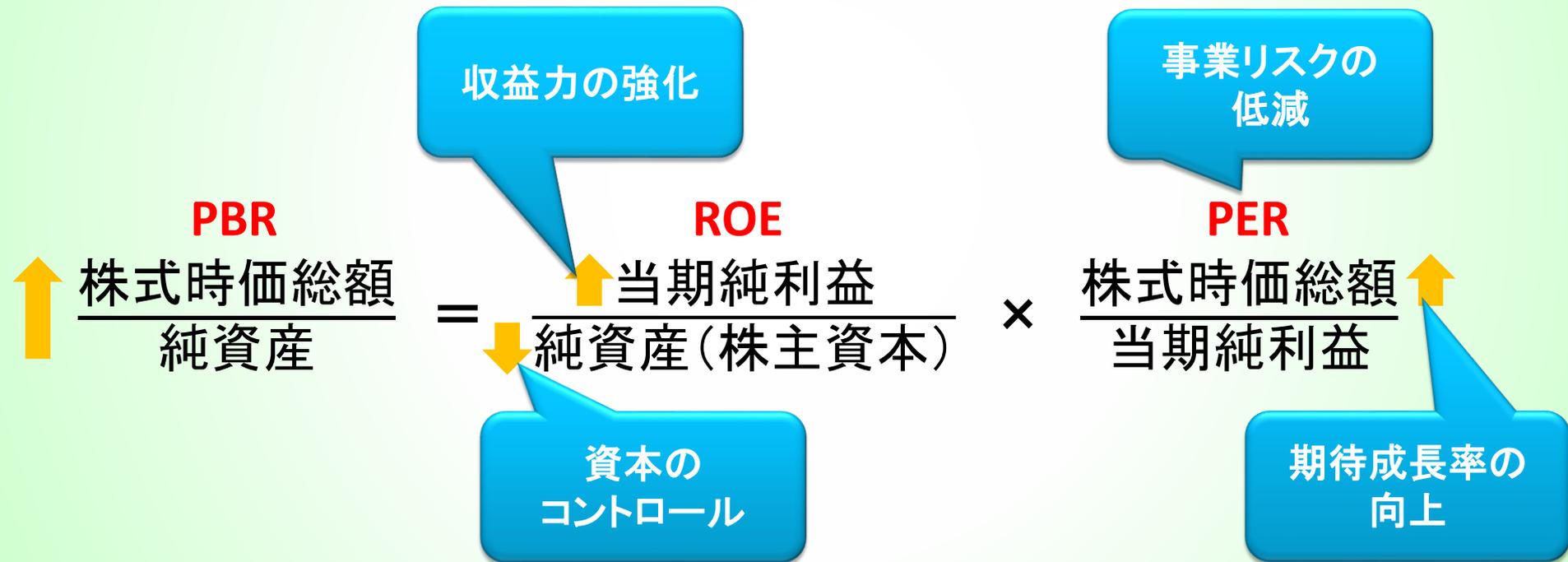


◆ PBRは近年0.55～0.80程度のレンジで推移していたが、2023年度に上昇基調が鮮明となり、年度末には1倍近辺まで上昇。

◆ ニチレキ株価は2023年度、着実に上昇し、年間でTOPIXのパフォーマンスを大きく上回った。

企業価値向上に向けた取り組み(要旨)

収益力の強化、資本の適切なコントロールによりROE向上に取り組むと同時に、
資本コストの低減によりPERの向上を目指す



企業価値向上に向けた取り組み(I)【ROEの向上】



■ ROEの向上

課題	対応	具体的な施策
収益力の強化		
リターンの向上	高付加価値製品・工法の開発・導入	研究開発の強化/大学・外部パートナーとの共同研究 つくばビッグシップにおける新規製造インフラの整備
	適正な価格転嫁	原材料価格の上昇等に伴うコストの適正な価格転嫁
効率化・コスト削減	DXの推進	リモートによる現場検査、工事ロボットの活用等、DXを活用した点検・施工技術の提供
	物流の効率化	伊藤忠エネクス株式会社との資本業務提携 つくばビッグシップにおける物流管理の効率化
資本のコントロール		
資本効率の改善	適切な資本配分の実施	成長投資と株主還元への適切なアロケーションの実施
株主還元の充実	適切なペイアウト政策の実施	安定的な株主配当の実施・増配
		状況に応じた機動的な自己株式の取得

企業価値向上に向けた取り組み(Ⅱ)【PERの向上】



■ PERの向上 (資本コストの低減)

課題	対応	具体的な施策
事業リスクの低減		
ESG及び品質・安全 対応の徹底	環境・社会問題やガバナンス への対応	CO ₂ 排出量削減を可能とする製品・工法の開発 舗装の強靱化・長寿命化等の社会課題解決手段の提供 持株会社体制 / 監査等委員会設置会社への移行
	品質・安全への取り組み	車両点検表のデジタル化・AI搭載型ドライブレコーダーの運用 ウェアラブルカメラによるWeb活用型安全パトロール
期待成長率の向上		
株主をはじめとする ステークホルダー への対応強化	株主・投資家との積極的な対 話(IR/SRの強化)	決算説明会、スモールミーティング、個人投資家向け説明会及び投資家 との個別面談の開催、開示情報の充実
	ステークホルダーに向けた広 報の強化・ブランド価値向上	各種展示会への出展、新聞、雑誌、ラジオ等の媒体やスポンサーシップを 通じた広報展開
	非財務情報の開示強化	統合レポート(日本語・英語)、環境情報等の積極的な開示

IV. 今後の展望

持株会社体制への移行について

【2024年4月～(現在)】

ニチレキ株式会社 (分割会社)

- ・アスファルト応用加工製品事業
- ・道路舗装事業

ニチレキ分割準備
株式会社
(承継会社)

2024年4月設立

子会社

子会社

子会社

吸収分割

【2024年10月～】

商号変更 (2024. 6～監査等委員会設置会社)

ニチレキグループ株式会社 (分割会社)

- グループ経営戦略の企画・立案およびグループ会社の経営管理・監督、グループ共通業務等

【持株会社】
・戦略立案
・経営管理

商号変更

ニチレキ株式会社
(承継会社)

- ・アスファルト
応用加工製品事業
- ・道路舗装事業

子会社

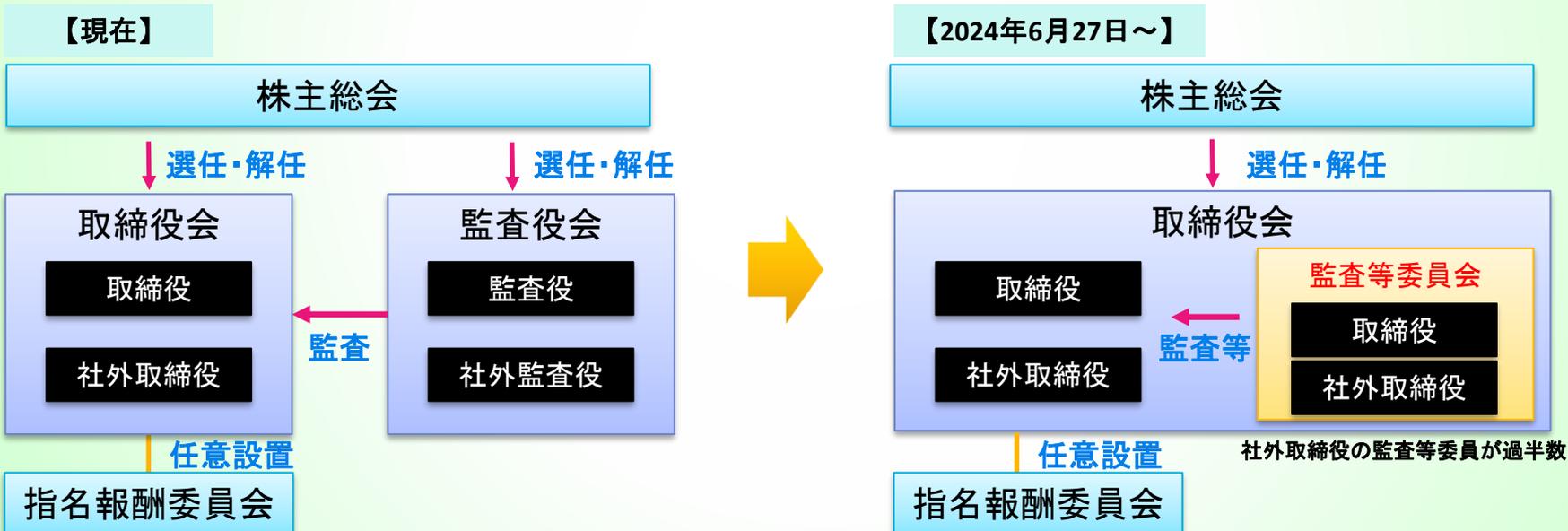
子会社

子会社

【事業会社】
・事業遂行

監査等委員会設置会社への移行について

- ◆ より機動的な経営判断の実施と取締役会の監督機能を一層高めることを目的として、2024年6月開催予定の定時株主総会終結の時をもって監査等委員会設置会社に移行する方針。
- ◆ 迅速な経営の意思決定および業務執行を可能とするとともに、取締役会の監督機能の強化を図り、コーポレート・ガバナンスをより一層充実させ、更なる企業価値の向上を目指す。



譲渡制限付株式報酬制度の導入について

要旨

2024年5月17日開催の取締役会において、役員報酬制度の見直しを行い、譲渡制限付『株式報酬制度』の導入を決議。

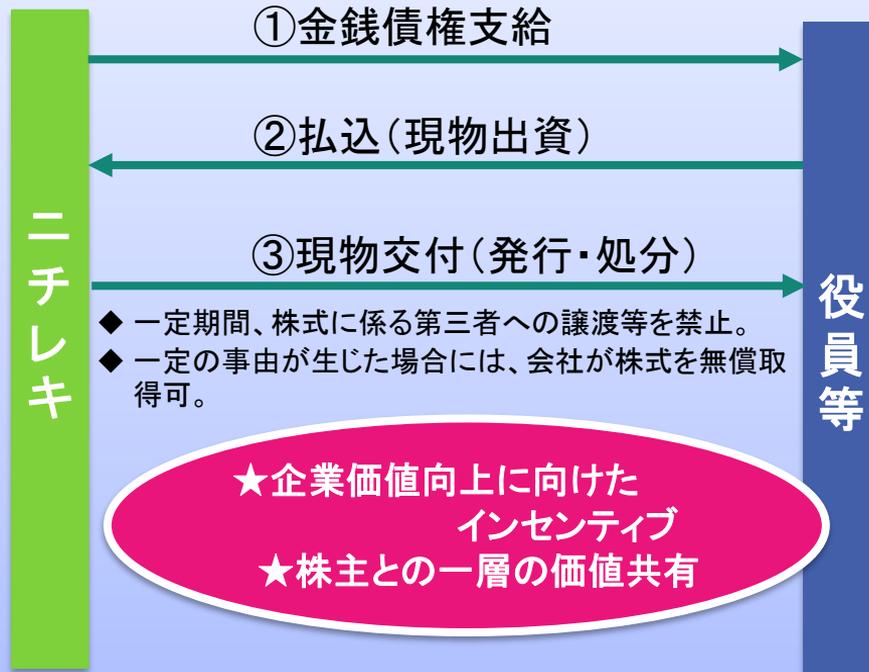
(2024年6月27日開催予定の第80回定時株主総会に付議予定。)

【対象】 取締役

【目的】

- ◆ 役員に対し、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えること。
- ◆ 自社株式の保有により、株主との一層の価値共有を進めること。

スキーム



「つくばビッグシップ」プロジェクトについて

◆ 着工を延期していた「つくばビッグシップ」に着工。



生産能力の向上

高付加価値製品の製造

首都圏の「工事センター」機能

環境に配慮した生産・物流の実現

物流管理の効率化

BCP(事業継続計画)機能の強化

伊藤忠エネクス株式会社との資本業務提携

物流及び研究開発・新技術の活用等に関し、両社の関係を一層発展・強化し、長期的なパートナーシップを構築。

資本提携

ニチレキ株式会社

約10億円相当の
ニチレキ自己株式を割当



約10億円分の伊藤忠エネクス株式を
市場買付け等により取得(予定)

伊藤忠エネクス株式会社

業務提携

- ① ネットワークの活用による物流の合理化
 - 輸送網の共有および輸送の共同化
 - 最適な輸送体制の構築
- ② 研究開発と新技術の活用
 - 次世代燃料等の利用による環境負荷低減型の生産・物流・施工体制の整備
 - 環境負荷低減型舗装用材料の新規開発および素材調達

経営成績目標



売上高



経常利益と経常利益率



※2026年3月期目標は、2022年5月10日適時開示の修正後の目標値。
原油価格110ドル/バレル、為替130円/ドルで想定

トピックス①

4月 東北大学大学院に共同開発部門を開設
「GLOCAL-EYEZ」が国交省カタログに登録
ニチレキ大阪営業所、近畿ニチレキ工事
南大阪支店、ラインファルト工業本社開設

5月 ラジオNIKKEI番組「企業トップが語る！
威風堂々」ゲスト出演

7月 「東北ジャーナル」に対談記事掲載
ニチレキ那須営業所、
日瀝道路那須営業所開設
「日本経済新聞」広告掲載①

8月 「日本経済新聞」広告掲載②

9月 個人投資家向けIR説明会
統合レポート2023(日本語版)を発行
「GLOCAL-EYEZ」性能確認試験合格

トピックス②



10月 「日刊工業新聞」記事掲載

第27回 世界道路会議への出展

伊藤忠エネクス株式会社との資本業務提携

第72回 日経広告賞「大賞」受賞

東北大大学院IMCとの実証実験

統合レポート2023(英語版)を発行

11月 第35回 日本道路会議 論文賞受賞

インフラDXコンペ 審査員特別賞受賞

ハイウェイテクノフェア2023への出展

1月 第7回 インフラメンテナンス大賞 優秀賞受賞
(GLOCAL-EYEZ)

ラジオNIKKEI「この企業に注目！
相場の福の神」出演

2月 土木学会インフラメンテナンスチャレンジ賞受賞

5月 第45回 2024日本BtoB広告賞 「経済産業大臣賞」受賞

インフラメンテナンス大賞 優秀賞受賞

◆2024年1月16日

日本国内におけるインフラメンテナンスに関わる優れた取組や技術開発を表彰するインフラメンテナンス大賞において、当社の「**GLOCAL-EYEZ**」が、国土交通省優秀賞(技術開発部門)を受賞。



土木学会インフラメンテナンスチャレンジ賞受賞



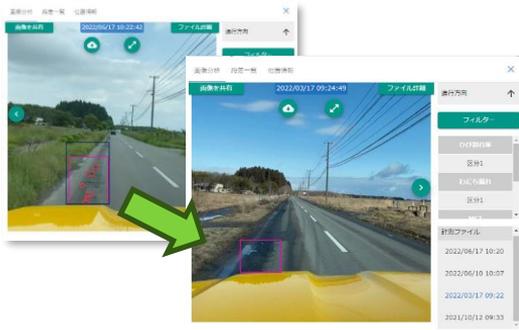
◆ 2024年2月28日
青森県との共同による「**GLOCAL-EYEZ**」を活用した取組が、土木学会のインフラメンテナンスチャレンジ賞を受賞。

「予防保全型舗装メンテナンスの構築を目指したAI舗装点検システムの開発」

GLOCAL-EYEZにより県内全域の舗装
損傷状況をタイムリーかつ一元把握

ポットホール発生前後の画像を学習し
ポットホール発生を予測するAIを開発

AI予測結果に基づき
ポットホール発生前に予防保全を実施



(参考資料)
会社概要

会社概要



名称	ニチレキ株式会社 NICHIREKI CO.,LTD.
本社所在地	東京都千代田区九段北四丁目3番29号
創業	1943年10月（設立 1949年9月）
資本金	29億1,968万円
代表者	代表取締役社長 小幡 学
従業員数	977名（連結、2024年3月31日現在）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・ アスファルト応用加工製品の製造・販売・ 建築・土木用資材の製造加工・販売・ 道路舗装工事・防水工事・上下水道工事、及びその他の土木工事の請負、これに関する調査・設計・監理 他

グループ沿革



1943年	池田英一がアスファルトを用いた建築防水工事を行う日本瀝青化学工業所を興す
1949年	会社設立
1950年	東京都荒川区に東京工場・研究室を建設、アスファルト乳剤の製造を開始
1954年	分割合併等により日瀝化学工業株式会社に社名変更
1968年	東京都千代田区九段に本社ビル新築(現在に至る)
1974年	東証と大証の両市場第一部銘柄として上場
1977年	栃木県の小山工場内に技術研究所を開設
1994年	ニチレキ株式会社に社名変更
2002年	中国・北京市に特殊舗装材料の製造・販売を行う日中合弁会社 北京路新大成景観舗装有限公司を設立
2007年	初のM&Aを実施、大分県大分市の朝日工業テクノス(株)(2022年4月商号変更)を完全子会社化
2010年	中国・上海市に子会社 日瀝(上海)商貿有限公司を設立
2014年	連結子会社を完全子会社化
2017年～2019年	M&Aを実施、ラインファルト工業(株)、伸和化工(株)、ヒートロック工業(株)を完全子会社化
2020年	つくばみらい市に環境配慮型の生産・物流基地(つくばビッグシップ)を建設するための大規模な土地を取得
2022年	東京証券取引所の市場再編に伴い「プライム市場」を選択・移行
2023年	10月26日 創業80周年を迎える



事業概要

主として道路舗装に関する製品、技術、工事等を幅広く提供する事業を展開

●アスファルト応用加工製品事業

アスファルト乳剤、改質アスファルト、橋梁床版防水材料、路面補修材、クラック補修材、景観舗装材料、工業用製品などのアスファルト応用加工製品の製造・販売、および建築・土木用資材の製造加工・販売

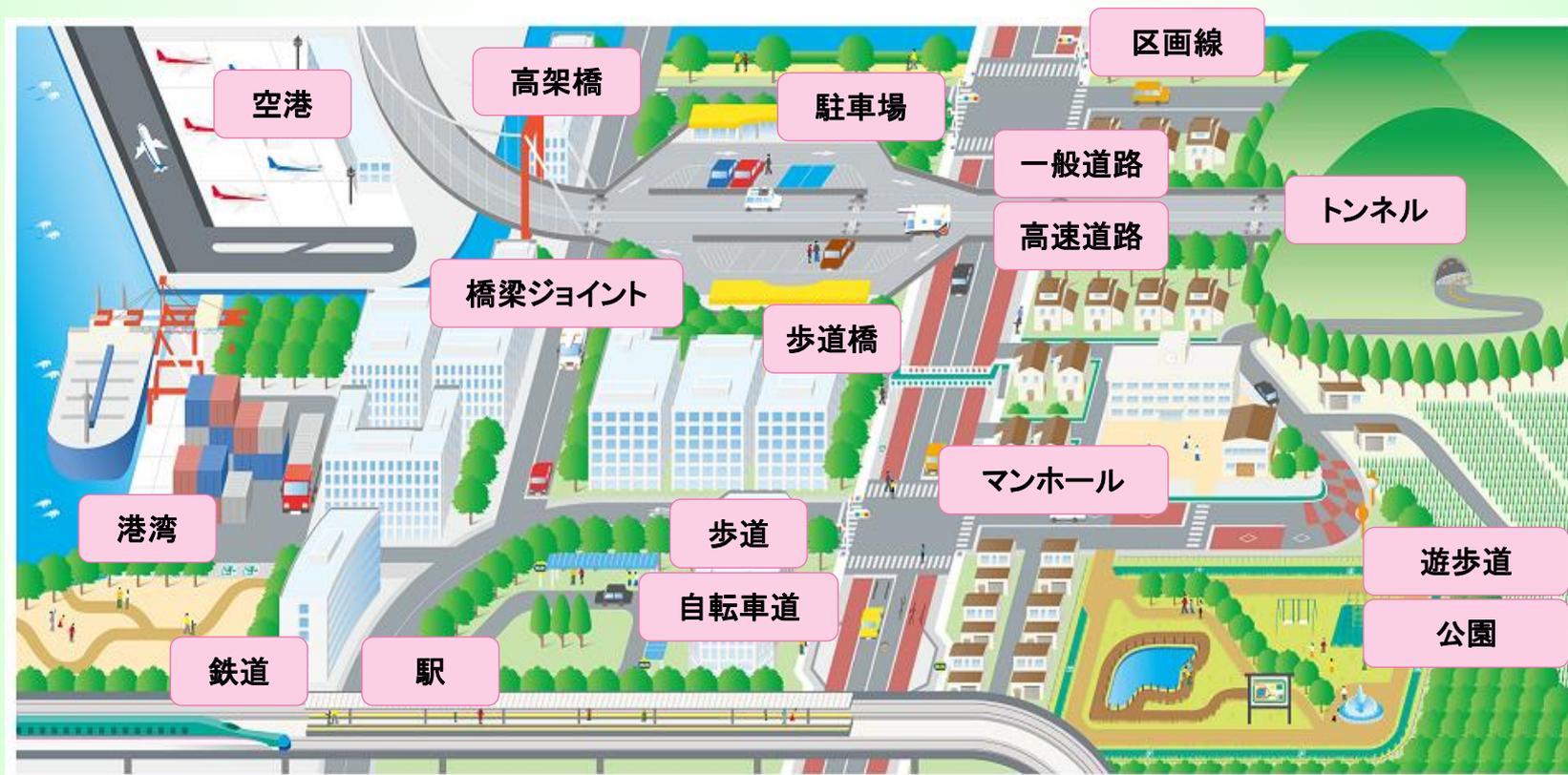


●道路舗装事業

道路舗装工事、橋梁床版防水工事、上下水道工事ならびにその他の土木工事の請負、およびこれらに関する調査・診断、設計、監理



事業領域



ニチレキグループ 競争優位の源泉



舗装に関する一貫したソリューション

舗装の調査・診断から補修方法の設計・提案、アスファルト応用加工製品の製造・販売から施工・管理に至るまで、舗装に関する一貫したソリューションシステムを構築。

研究開発力

お客さまのご要望や困りごと、市場のニーズに対応すべく、創造性と独自性を発揮して新たな製品や工法を生み出す研究開発力。

日本全国に広がるネットワーク

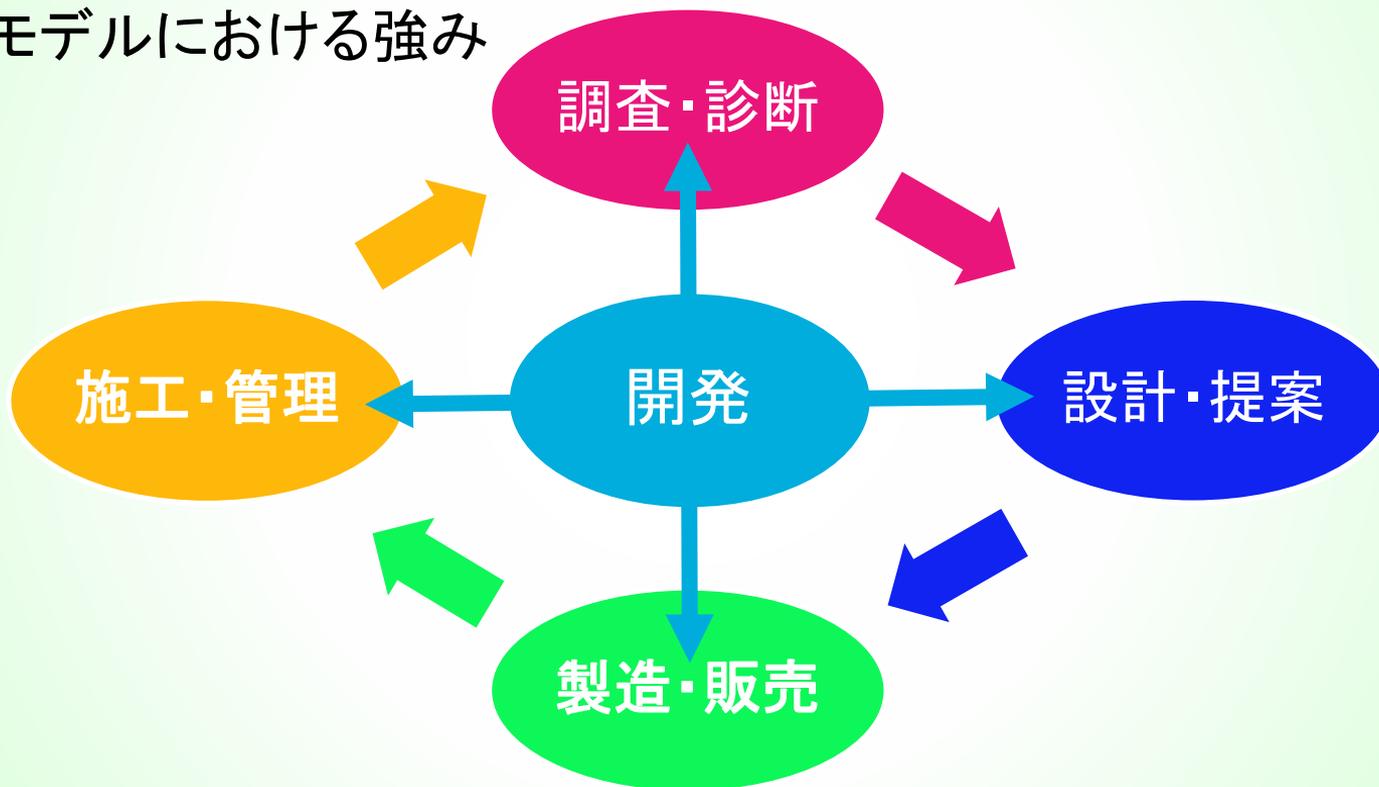
国内99拠点(44/47都道府県)を擁しており、全国各地に根付いた拠点において、お客様、道路管理者様と密接なコミュニケーションを実施。

ブランド力

アスファルト乳剤、改質アスファルトで国内トップクラスのシェアを占め、全国の舗装関係者の間で「舗装材料はニチレキ」というブランド・イメージが広く定着。

舗装に関する一貫したソリューション

ビジネスモデルにおける強み

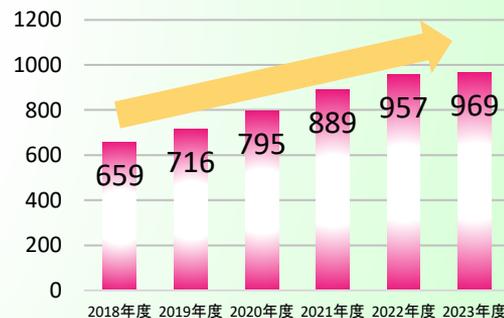


研究開発力

- ◆ ニチレキ社員の約1割(約40名)が研究開発部門に所属し、年間約10億円の資金を投入
- ◆ 舗装における性能評価試験機類を配備、道路の長寿命化、大規模更新などの社会インフラのメンテナンス時代に対応した環境配慮型の製品・工法の研究開発を推進



(百万円) 研究開発費



(※)上記の研究開発費には、ソフト関連開発費用等を含む

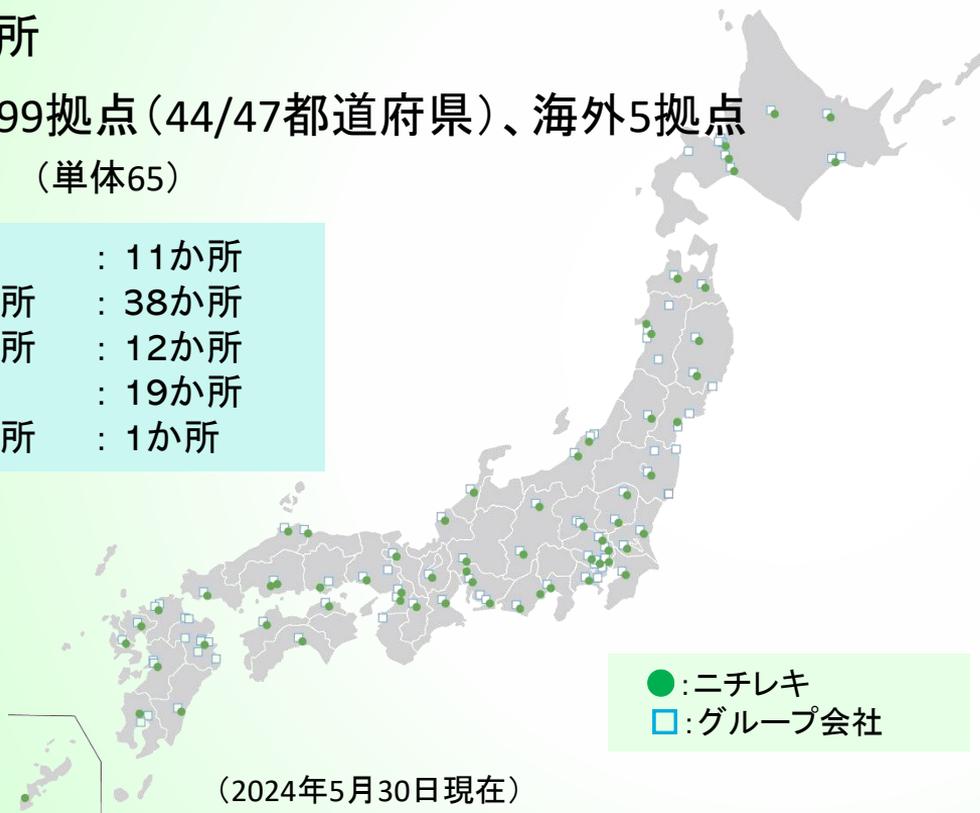
日本全国に広がるネットワーク



◆事業所

国内99拠点(44/47都道府県)、海外5拠点
(単体65)

支店 : 11か所
営業所 : 38か所
出張所 : 12か所
工場 : 19か所
研究所 : 1か所



(2024年5月30日現在)

◆グループ会社(連結子会社)

北海道ニチレキ工事株式会社
東北ニチレキ工事株式会社
日瀝道路株式会社
日レキ特殊工事株式会社
中部ニチレキ工事株式会社
近畿ニチレキ工事株式会社
中国ニチレキ工事株式会社
四国ニチレキ工事株式会社
朝日工業テクノス株式会社
九州ニチレキ工事株式会社
ラインファルト工業株式会社
ヒートロック工業株式会社

など35社

アスファルトの特徴・用途

◆アスファルトは黒色の粘着性の高い半固体物質で原油を精製して得られる。



舗装関連での主たる用途は以下の通り。

用途	説明
接着剤	アスファルトは高温で液体状態、低温で固体状態になる …舗装においては骨材(碎石、砂、石粉など)同士をつなぐ接着剤として利用される
防水材	アスファルトは防水性が高く、水が浸透しづらい …橋梁等における防水材として利用される
緩衝材	アスファルトは柔軟性がある …車両等の走行時に生じる振動を吸収し、周囲への振動伝播を減少させる緩衝材として利用される

道路舗装に求められる機能

「ひび割れ」しにくい

「わだち掘れ」しにくい

平坦性

剥離しにくい

滑りにくい

透水性 / 保水性

安全性

走行しやすい(快適性)

道路舗装に求められる機能

長寿命(耐久性)

情報伝達

遮熱性

景観性

騒音低減

臭気低減

環境負担低減

工事後の
早期交通開放

サプライチェーンにおける
CO2排出量削減

多様化、高度化する社会ニーズをたえず先取りし
優れた機能とコストを満足する道路舗装材料・工法を社会に提供

アスファルト乳剤・改質アスファルトとは



改質アスファルトの適用例

◆交通量や気象条件などにより高い耐久性が求められる場合に、ストレートアスファルトに代わり改質アスファルトが用いられる。

重交通路線

交差点・バス停
交通渋滞箇所



大きな交通荷重による「ひび割れ」「わだち掘れ」のリスク

塑性変形抵抗性

ひび割れ抵抗性

橋面舗装(鋼床版)



鋼床版特有の大きなたわみによる「ひび割れ」のリスク

疲労抵抗性

たわみ追従性

改質アスファルト

摩耗抵抗性

剥離抵抗性

積雪寒冷地域



チェーンの衝撃等による骨材飛散のリスク

骨材飛散抵抗性

耐水性

橋梁床版防水



水の浸入による床版の耐久性劣化のリスク

アスファルト乳剤の適用例

アスファルト乳剤は、骨材同士の接着剤としての役割のほか、舗装の各層や他の構造物とアスファルト混合物の接着剤として用いられる。

タックコート

新たに舗設するアスファルト混合物層とその下層との接着および継目部や構造物との付着を良くする。

プライムコート

路盤表面に浸透し安定性や防水性を高め、その上に舗設するアスファルト混合物となじみを良くする。

瀝青安定処理

アスファルト乳剤を混合し、より強固な路盤を形成する。

作業が容易

小規模補修

常温混合物として段差修正およびポットホール補修など、舗装の補修に利用する。

速分解
べたつき防止

高浸透

骨材との接着



気候変動への対応

ニチレキグループでは、気候変動による事業への影響を重要な経営課題の一つと捉え、気候変動対策への取り組みを積極的に実施。

■ 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)に賛同

目標

*「統合レポート2023」において、TCFD提言に基づく開示を行っています。

■ 2030年度までにScope 1+2の温室効果ガス排出量を2013年度から50%削減

■ 2050年までにバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量ネットゼロ

施策

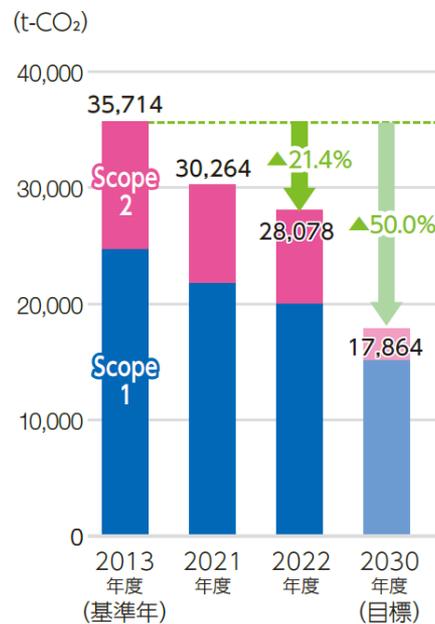


■ 製造方法の改革、グリーン電力の購入、太陽光パネルの設置促進等

■ 長寿命化・中温化舗装用改質アスファルト等の環境配慮型製品の販売拡大

■ 低炭素型の常温舗装材料及び施工技術の開発促進

<CO₂排出量の削減目標>



ニチレキの「足すテナビリティ」

ニチレキグループは環境に配慮した製品・工法で、
ステークホルダーの皆様のCO₂排出量削減ニーズにお応えします。

アスファルト乳剤

改質アスファルト



橋梁床版防水

景観舗装

etc...



リサイクル



中温化



低炭素



長寿命化



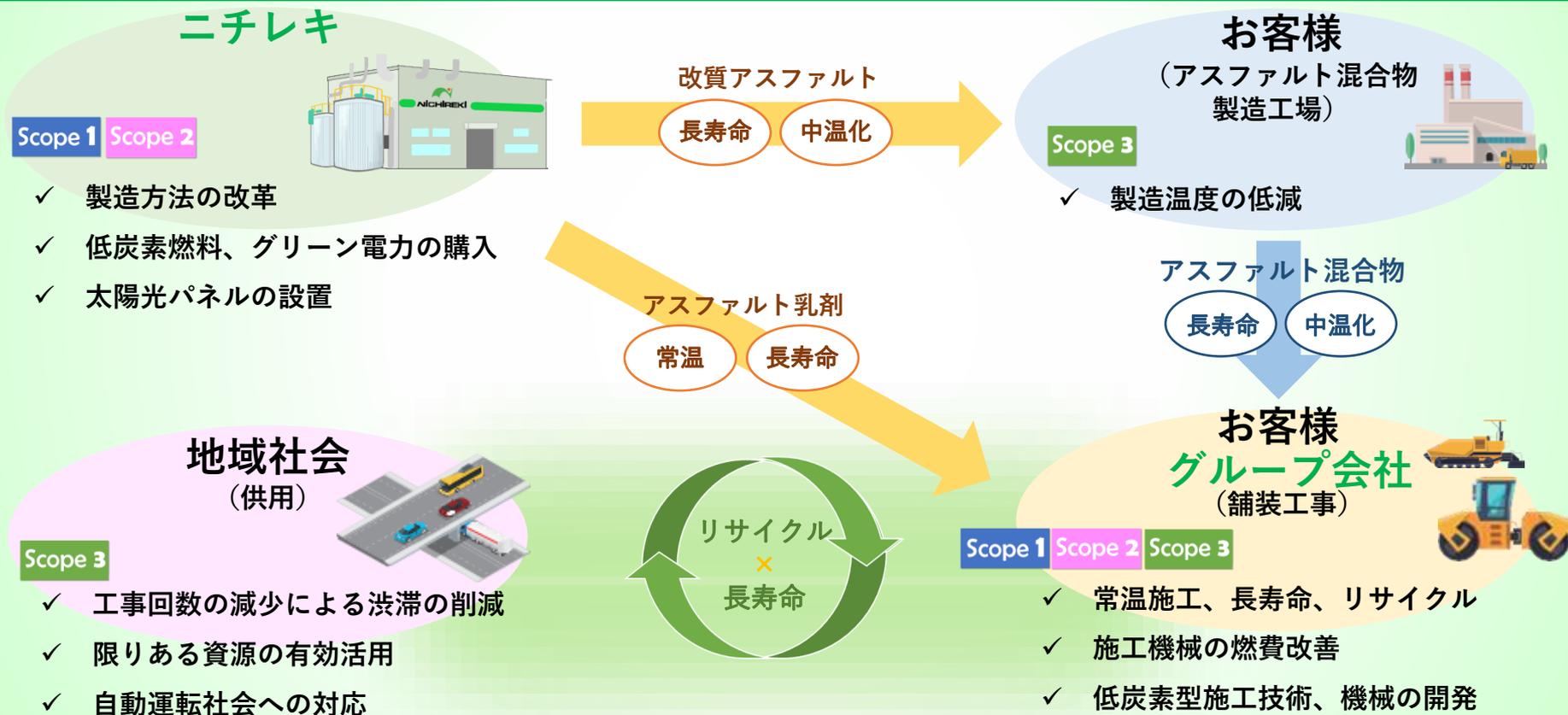
常温



安全安心

長寿命、リサイクルなどのさらなる性能・機能を「プラス」する
すなわち『 **足す**テナビリティ[®] 』により、持続可能な道づくりに貢献します。

ニチレキ製品・工法のCO₂削減イメージ例



スーパーコンテナファルト



中温化

アスファルト混合物製造時のCO₂排出量

約**13%**減

- ◆ 極めて高い塑性変形抵抗性を有し、**港湾や空港等**に適用可能な重荷重用特殊改質アスファルト
- ◆ 従来のニチレキ製品であるコンテナファルトSに比べ、混合物の製造温度を185℃から155℃に、**30℃低減**



足可テコビリティヤ®



長寿命化



舗装の**長寿命化**に寄与し、補修頻度を低くできることから
工事作業および交通渋滞等によるCO₂発生量の削減にも貢献

スーパーシナヤカファルト



アスファルト混合物製造時のCO₂排出量
約**22%**減

- ◆ 手で曲げられるほどの柔軟性と、交通荷重に耐えうる強靱性を兼備した特殊改質アスファルト
- ◆ 従来のニチレキ製品であるシナヤカファルトに比べ、混合物の製造温度を180℃から130℃に、**50℃低減**



足すテコビリティヤ®



長寿命化



舗装の**長寿命化**に寄与し、工事回数が約2分の1に削減できることから
工事作業および交通渋滞等によるCO₂発生量の削減にも貢献

スーパーコンテナファルト + スーパーシナヤカファルト



足可テコビリテヤ[®]



長寿命 + 中温化により、CO₂排出量

約**48%**減

- ◆長寿命なアスファルト混合物である、スーパーコンテナファルトとスーパーシナヤカファルトを**組み合わせ**て**舗装**することにより、これまでにない**長寿命**舗装を実現
- ◆これにより、50年間の舗装のライフサイクルにおいて、CO₂発生量を約48%削減

国土交通省

「R4新4号国道古河地区舗装工事」に採用

試験施工が行われ、適切な施工管理のもと良好な出来形を確保



スタビセメントRC工法



既設舗装の再生利用により、CO₂排出量
約**22%**減

- ◆ 破損が進行した既設舗装を現位置で再利用し、新たな舗装を構築することにより、現場から排出する舗装廃材を約**80%**削減



足音テクノロジー®



長寿命化



工事期間の短縮やそれに伴う交通渋滞の軽減等により、さらなるCO₂発生量の削減にも貢献

※「打換え工法」と比較
(一般的な地方道レベル、設計CBR=4、大型交通量N5)

スーパーシナヤカファルト + スタビセメントRC工法



長寿命+リサイクルにより、CO₂排出量

約**49%**減

- ◆ スタビセメントRC工法で構築した基盤の上に、スーパーシナヤカファルトを舗装することにより、これまでにない舗装の**長寿命化**を実現
- ◆ これにより、50年間の舗装のライフサイクルにおいて、CO₂発生量を約49%削減

足可テゴビリティ®



高耐久型橋梁床版防水工法

足可テコビリティヤ®



長寿命により、50年のライフサイクルでCO₂排出量

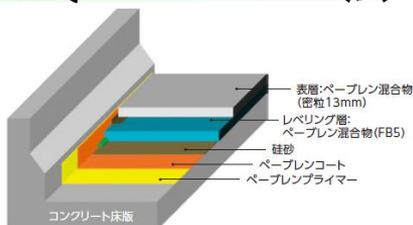
約**50~75%**減

- ◆ 橋梁は人や交通、経済をつなぐ重要なライフラインであり、長持ちさせる必要があるため、舗装を支えるコンクリート床版に水が染み込むのを防ぐ、高耐久な床版防水が求められている
- ◆ ニチレキは、現場に合わせて多彩なメニューから適切な高耐久型橋梁防水工法を提案

CO₂ 75%削減

舗装系防水工法

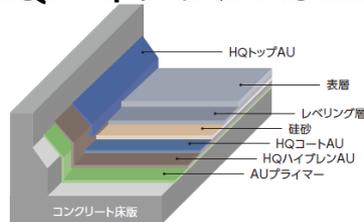
HQペーブレン工法



CO₂ 75%削減

高性能型橋梁床版防水工法

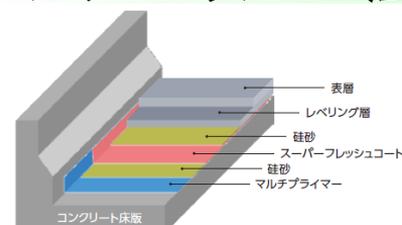
HQハイブレンAU工法



CO₂ 50%削減

高浸透型複合防水工法

マルチフレッシュ工法



アスウッド舗装



通常の加熱舗装と比べCO₂排出量

約**34%**減

- ◆ 常温施工によるウッドチップ舗装
- ◆ 透水性やクッション性に優れ、
周囲の自然に溶け込む風合いで**景観**にも配慮



足コトコビリティ[®]



間伐材等を燃やさずに**利用**することにより、CO₂を大気中に戻さず固定化



例えば、厚さ4cmで1,000m²をアスウッド舗装で施工した場合
固定化できるCO₂の量は、**杉の木約1,300本が年間に吸収する量**に相当

沿道環境への配慮



足可テコビリテヤ® 製品・工法を使用した沿道環境の改善により
ステークホルダーの皆様に安全・安心をお届けします

スーパーロメンパッチ

騒音・振動低減



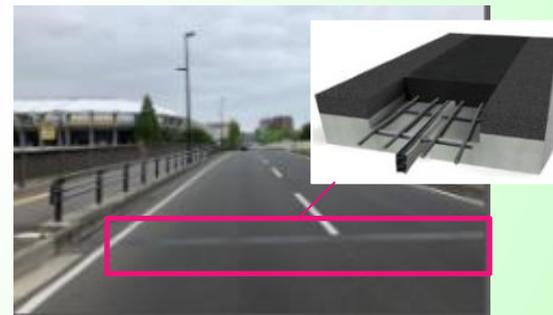
ケミファルトMX

交通安全
騒音低減



シームレスジョイント

騒音・振動低減



◆ ご注意事項

本資料に含まれる業績予想等の将来予測に関する記述は、資料作成時点における入手可能情報および、当社の判断・仮定に基づくものです。今後の経済状況および事業環境の変化等により、実際の業績は現時点の予測から乖離する可能性があります。

◆ お問い合わせ先

ニチレキ株式会社 広報部 IR担当

TEL：03-3265-1513（8:30～17:30、土日・祝日を除く）

HP：<https://www.nichireki.co.jp/inquiry/>